

「失敗ではない。うまくいかない1万通りの方法を発見したのだ。」

エジソン以外は「ちえすと！」より転載



「ラーメンだ！」



「茶色い！」



「もの作り…」



「発明家…」

「できたぞ！福子！」



発明家トーマス・エジソン。彼の失敗についての考え方はとても有名です。

「失敗は積極的にしていきたい。なぜなら、それは成功と同じくらい貴重だからだ。」

失敗がなければ、何が最適なのかわからないだろう」

エジソンは、約2,000個ものフィラメントを試し、ようやく低価格で効率的に生産できる「電球」を発明。そこに至るまで、気の遠くなるような時間を費やしました。そんな彼から学ぶ失敗論を紹介しましょう。科学者は「失敗」をどう受け止める？

求めている結果に辿り着くため、科学者は幾度となく研究を繰り返します。失敗はその過程で起きるひとつの出来事。むしろ、その失敗から次のステップが見えてくることもあるので、彼らにとっては成功と同じくらい必要であり、ありがたいものなのです。

それでも私たちは、失敗に怯えてしまう傾向にあります。そのせいで、新しいことになかなかチャレンジできない、なんてことも少なくないはず。失敗という言葉を聞くと、うまくいかなかった人間関係や、落ちてしまった面接、といった過去の経験を連想するでしょう。その考え方だと、「失敗＝ネガティブ」という概念が染みついても無理はありません。

しかし科学者の視点からすると、失敗はあくまでも成功への過程。失敗をしてこそ、「自分の目標に近づく」という認識なのです。そう考えると、ずいぶん気持ちが楽になりませんか？

実験のプロセスは人生にも当てはまる 科学者が実験をするときの方法は、この通り。

- step1. 質問を投げかける
- step2. 仮説を立てる
- step3. 実験する
- step4. 結果を分析する
- step5. 結論を出す



じつはこの方法は、人生にも当てはめることができます。まずは、step3まで実行してみてください。そして、step4は結果をもとに、自分が仕事や人生についてどういう思いを抱いているのか、じっくり分析してみましょう。エジソンはこう言いました。

**「私たちの最大の弱点は諦めることにある。成功するのに最も確実な方法は、つねに
もう一回だけ試してみることだ」**

あなたが夢を追うことは、エジソンが電球の発明を試みたのと同じこと。結果を出したいのであれば、失敗を恐れてはいけません。エジソンのように、辛抱強く何度も試行錯誤することは、目標へ向かう長い道のりで、避けては通れないこと。ときには、どうしていいのかわからず、悩むこともあるでしょう。しかし、そのつらい時期を乗り越えてこそ、新たな道が切り開けるのです。

「すべての可能性を使いきってしまったとき、こう思い出すんだ。 - まだ使い切っていない」

と、エジソンが言うように、方法はいくらでもあります。これを機にあなたも「失敗」の捉え方を科学者のように変えてみてはどうでしょう？ポイントは、とにかくチャレンジ精神を捨てないこと。失敗を恐れず、自分に合うか合わないかを見極める手段のひとつとして、まずはどんなことにも挑戦していきましょう。

結果はどうであれ、成功までの長い道を楽しむことはとても大切です。まずは、勇気を出して最初の一步を踏み出してみてください。

